

■人口ビジョン案の修正について

社会増減率の考え方について、転出の抑制と同時に転入の増加を目指していくことが分かるよう、加筆修正をしました。

該当項	修正前	修正後
P.57 上から 2～5 行目	社会増減の増加をめざし、本市への人口定着を図るためには、 <u>市民が愛着をもって暮らせるまちづくりを進めることにより、現在流出傾向が高い若者世代の定着を目指す必要がある。また、市内及び周辺都市における雇用の創出により、流入人口の増加を目指していくことが求められる。</u>	社会増減の増加をめざし、本市への人口定着を図るためには、 <u>小美玉市の魅力を積極的に発信するとともに、市内及び周辺都市における雇用の創出により、より一層の流入人口の増加を目指していくことが求められる。</u> また、市民が愛着をもって暮らせるまちづくりを進めることにより、 <u>現在流出傾向が高い若者世代の定着を目指す必要がある。</u>
P.57 上から 10行目	雇用の場の創出、魅力的なまちづくりや住宅施策などによって、 <u>転出意向のうち～</u>	雇用の場の創出、魅力的なまちづくりや住宅施策などによって、 <u>安定した転入が見込め、転出については、転出意向のうち～</u>
P.57 下から 1行目	魅力あるまちづくり、公共交通の充実、雇用の場の創出、若い世代が住みたいと感じる住宅地の充実などの取組により、 <u>全転出者の～</u>	魅力あるまちづくり、公共交通の充実、雇用の場の創出、若い世代が住みたいと感じる住宅地の充実などの取組により、 <u>より一層の転入促進が見込めるとともに、転出抑制については、全転出者の～</u>
P.58 上から 4～5 行目	市内の雇用の場の確保、魅力的なまちづくりや住宅施策等により、「 <u>市内に住む</u> 」～	市内の雇用の場の確保、魅力的なまちづくりや住宅施策等により、 <u>市外からの若者の転入が見込めるとともに、「市内に住む」～</u>
P.58 下から 2行目	魅力あるまちづくり、公共交通の充実、雇用の場の創出、若い世代が住みたいと感じる住宅地の充実などの取組により、 <u>20～24歳の～</u>	魅力あるまちづくり、公共交通の充実、雇用の場の創出、若い世代が住みたいと感じる住宅地の充実などの取組により、 <u>市外からの若者世代の流入が見込めるとともに、20～24歳の～</u>
P.60 上から 2～4 行目	1)～3)のように、「定住の促進」、「地元就職率の向上」、「地元進学率の向上」が実現した場合、 <u>社会移動率が流出超過となっている年齢グループにおいて流出が抑制され、社会移動率を回復させることができると想定する。</u>	<u>流入人口については、魅力的なまちづくりの推進や積極的なPRを展開することにより、現在の増加傾向を継続的に維持していけるものと想定する。</u> <u>流出人口については、1)～3)のように、「定住の促進」、「地元就職率の向上」、「地元進学率の向上」が実現した場合、特に社会移動率が流出超過となっている年齢グループにおいて流出が抑制され、社会移動率を回復させることができると想定する。</u>
P.60 上から 5行目	転出全体を抑制し、～	<u>転入増加傾向を維持しながら、転出全体を抑制し、～</u>
P.60	表内	転入増加傾向を維持
P.61	表内	■ <u>転入については全体として増加傾向を維持する</u>